

## 銭湯で教育を考えた

私は土曜日から日曜日の夕方に近くの銭湯に行きます。

ぶらぶら歩いて行き、ゆーっくり、体中の垢（あか）を落とし、湯上がりに缶ビール飲みながら新聞を読むのが楽しみである。

先日、風呂に入っていたら、賑やかなたくさんの子供の声がした。

と、思ったとたん、ななんと、保育園年長さんぐらいか10人もの男の子が入ってきた。

引率は外人のお父さんぐらいの若者と60歳代の御仁である。

子供たちは、初めて銭湯に入るのか、まるでプール感覚ですごい状態である。

いつもなら（口には出さないが）切れそうになるところだが、引率の外人若者は、流ちょうな日本語で、「からだ洗いなさい」「シャワーを出し過ぎるな」「飛び込むな」などなど注意をしながら、怒らずに、でも放任せずに子供らと一緒に風呂になっている。

あの姿を見たら、怒りを越え、「そういえば、昔の銭湯はこんな状態だったな」と思いながら見守っていた。

一緒に入っていた年寄り達は、引率の御仁の知り合いか、うるさい子供たちを容認していた。

たぶん、近くのお寺さんの合宿か何かの活動だろう・・・。

そう考えていたうちに適当な時間でみんなあがっていった。

驚いたのは、引率の若者外人は、私を含めたお客一人ひとりに「ご迷惑かけました」「すみません」と挨拶していった。私は「グッド」のサインと尊敬の笑顔で送り出した。

私は、こんなことを感じた。

最近、この銭湯に大学生か高校生ぐらいの男子が入ってくるが、中には、風呂の入り方を全く学習していない奴らが入ってくる。シャワー出しっぱなし、ドアを閉めない。プール状態などなど。

「家風呂」、「全自動」が一般化する中、風呂のマナーを身につけることは、大人（親）がよほどしっかりしないとイケないレベルの問題だろう。

そう考えると、あの子供たちがもう少し大きくなるまでに何度か風呂の入り方を学習し、高校生や大学生になった頃には常識的なマナーが身につけているのではなかろうか。今回見たことは、どんな活動かわからないが、良い光景を見たような気がする。

教育現場でも同じだと思う。

マナーを十分に身につけないで入学する子供、そして教師。

「だめだ」「そんなこと知らないのか」ではなく、丁寧に教えることが大切なんだと思う。

かつて「新人類」といわれた世代の自分がそんなことをいうのは照れくさいが、時代を受け入れて対応しながら世代を受け継いでいく必要があるのだろう。

風呂上がりのビールが格別にうまかった。